

市民 NPO による緑地の利用・管理の参加者誘致圏について —東京都町田市かしの木山自然公園を事例に—

○栗田 和弥 東京農業大学地域環境科学部
植竹 薫 東京農業大学大学院造園学専攻

1. はじめに —かしの木山自然公園について—

市民による非営利組織（以下、市民 NPO）はその組織の目的など様々である。特にその中でも公園緑地などの自然環境の保全活動を行なう団体に公園愛護会がある。市民が主体となって公園設立から、公園緑地の計画、そして運営（植生管理作業、レクリエーションプログラム実施など）まで手づくりで行なう東京都町田市の「かしの木山自然公園」は、全国的にみて珍しい例であるといえよう。このような事例は近年、神奈川県横浜市の「市民の森」などにおいても、自然環境の管理としてのみならずレジャー・レクリエーション活動としても盛んになってきている。

「かしの木山」は、市有地の「かしの木山自然公園」と、市と土地所有者が借地契約をしている「かしの木山緑地」からなる 4ha の都市公園である。かしの木山自然公園は、住宅地に隣接し、雑木林やスギの植林、谷戸地形と一部湿地が残るなど貴重な緑と認識されていた。1985 年に地元住民が立ち上がり、署名運動が契機となって市が用地買収をして保全することが決定した。開園前から有志で手作り作業という活動を展開し、1988 年に開園した公園である。現在は、自然観察会、自然講座、講演会、工作教室などの活動や定期的な管理活動を展開している。かしの木山緑地は一般公開されていないが、雑木林保全のための最低限の植生管理を行なっている。

2. 目的および方法

近年のアーバン・フリンジ（都市と農村の境界域）における公園や農林地などの空間の管理の担い手として市民の潜在能力（意識）は高く¹⁾²⁾、将来の市民 NPO の活動の展開を進めていく上で、現状を検証することが重要であると考えられる。そこで、市民 NPO として愛護会会員の現状を把握することを目的とする。対象は、東京都町田市の中央に位置する「かしの木山自然公園」および「かしの木山緑地」（図-1 斜線部）を事例として、開園した 1988(昭和 63)年度から 1998(平成 10)年度 6 月までの「かしの木山自然公園愛護会会員」(以下、会員)として登録している市民の誘致圏について分析を行なった。

3. かしの木山自然公園愛護会会員の誘致圏について

会員の誘致圏を 7 地域（町田市の 6(旧 5 村)地域と山崎町地域（旧 3 村の境界をまたぐ形でつくられた町域）、および町田市外）に分け、開園からの年度毎に集計を行ない町田市の地形図にまとめた（図-1）。一般的な公園利用パターンでもいわれるように、近隣地域からの参加が多いことが明らかとなった。一方、遠隔地、特に旧境村（境）地域は、接近性の悪さや、境地域には雑木林など自然環境が比較的多く存在しているために、敢えてかしの木山の活動には参加しないことが考えられる。しかし、近隣であっても町田市外地域においては、市報などによる情報が不足していること、市外はよそ様の土地であるという意識によることが原因と考えられる。現会員数は 304 名である（1998 年 6 月現在）。

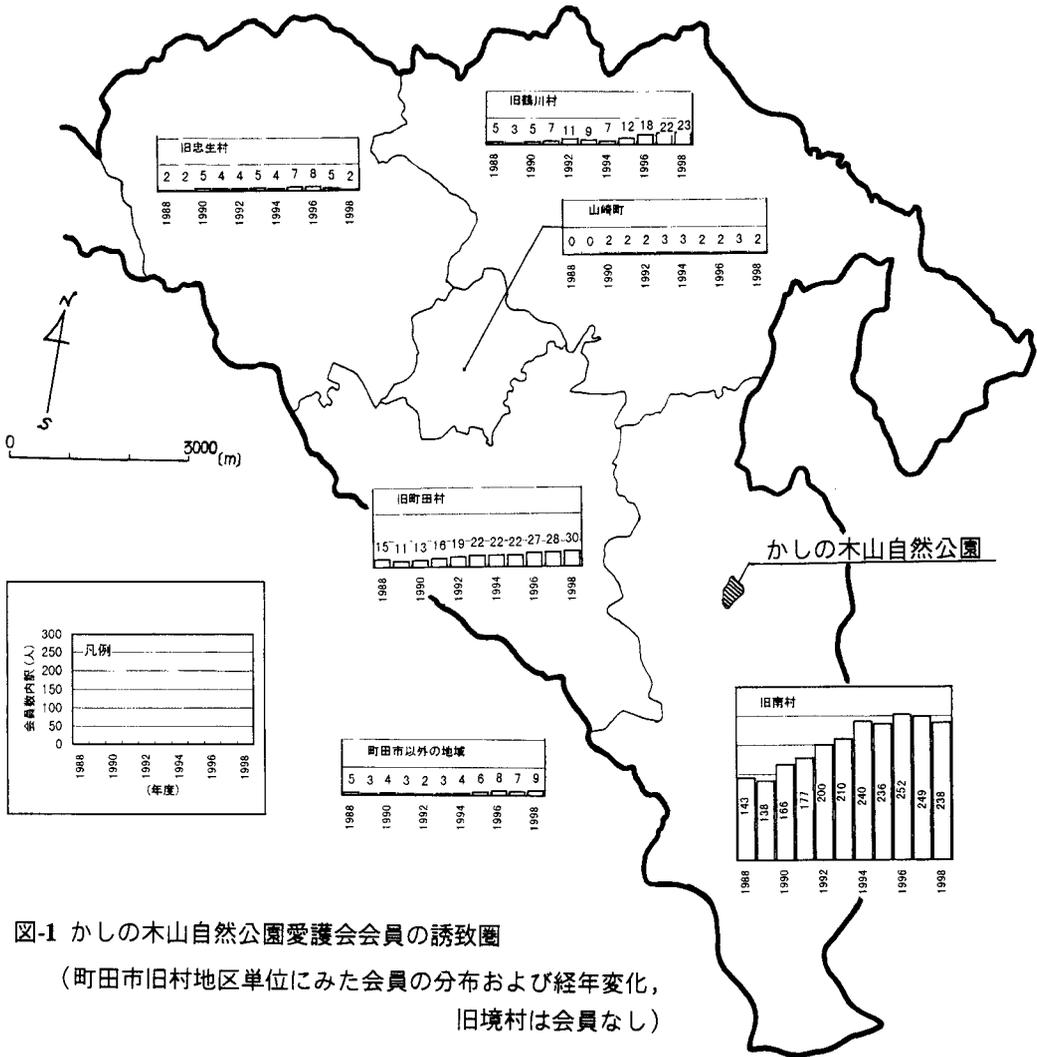


図-1 かしの木山自然公園愛護会会員の誘致圏
 (町田市旧村地区単位にみた会員の分布および経年変化、
 旧境村は会員なし)

おわりに

さらに今後、かしの木山自然公園の利用状況を把握するために、詳細に町名単位での分析や愛護会会員のみならず、公園の一般利用者の活動への参加動向を明らかにしていく必要がある。

本研究を進めるにあたりかしの木山自然公園の須崎郁三郎氏の貴重な助言をいただきました。また、愛護会執行部の皆様の御協力を賜りました。ここに御礼を申し上げます。

文献

- 1) 植竹 薫(1998): 自然環境保全市民ボランティア組織の活動実態に関する研究. 東京農業大学卒業論文. 39pp.
- 2) 影沢裕之, 栗田和弥, 永嶋正信(1997): 市民による雑木林における活動に関する研究. レジャー・レクリエーション研究, 37, 88-89.
- 3) かしの木山自然公園愛護会(1988~1998): かしの木山自然公園資料.